

(上右) 1階デッキ。モデルハウスの1.5mから1.8mに拡張した。この上で、木工などもやりたい。  
 (上中) 玄関を見上げる。階段の塗装はこれから。はんこ屋を営む、甥っ子さん手彫りの表札が目を引く。  
 (上左) 玄関。パズーで買ってきた絵がずらり。



# 愛犬との静かな時間を みんなとの賑やかな時間を

かつて、憧れだった別荘地は、今、木の家の建つ居所になった。  
 ゆったりした時間を楽しむもよし、親しい人たちをおもてなしするもよし。  
 「夢心地」の生活がスタートした。



施主の宮内一雄さん(66)。長年、大手自動車メーカーでエンジン開発に携わり2年前退職。



▲開放感のあるリビング。薪ストーブはノルウェイのヨツール。ピザも焼ける。クラシックを聴きながら本を読むのが至福の時間。



基礎は1.8mと思いつき高くした。通風性をよくするため。できるだけ高くから景色を眺めるようにするため。シロアリ対策のため。

## 風光明媚な城ヶ崎海岸 別荘地に建つログハウス

こんもりと、どこかユーモラスな印象の大室山。伊豆半島の東海岸随一の景勝地・城ヶ崎海岸。伊豆高原は、その間に広がるのどかな一帯だ。

城ヶ崎海岸の南端に、海を見下ろして広がるのが浮山温泉別荘地。その一画、7月に出来たばかりのサエホームさんのログハウスを、取材班が地図を頼りにお邪魔すると…

「わんわんわん！」

「おや、おや、大きなワンちゃん！」

その隣には、リクライニング・チェアを平らに倒して、青空に向かって本を広げる男性が…

「よく、来たね！」

起き上がりつつ、ご挨拶いただいたその顔には、高原にさんさんと降り注ぐ太陽のような笑顔が広がる。

この方が、本日のログハウスにお住いの、オーナー・宮内さんだ。

## アウトドアの拠点となった 憧れの地

「ここは、マック君との散歩には、うつつけの場所なんです」

マック君と言うのは、冒頭で、我々を迎えてくれたワンちゃんだ。宮内さんが家族のように可愛がっている。

「朝、起きたら、まずは、犬の散歩をします。」

欠かせない日課です」

お気に入りの場所は、歩いて7分ほどの赤沢漁港。元気な相棒は大きな体を海に投げ出して泳ぐのが大好きだそう。

そんなマック君は、アウトドアでのよきパートナーだ。もともと宮内さんは、野外で体を使うことが大好き。例えば、山登りも歴が長く、甲斐駒ヶ岳、北岳など数々の名峰に登ってきている。そして、ここ近年の登山は、もっぱら、マック君と一緒に。ワンちゃんOKの山で、大自然の喜びを分け合っているそうだ。

そして、この別荘地もアウトドアを楽しむ拠点として求めたものだ。実は、この場所40年ほど前、釣でよく訪れていたところ。憧れの地は、バブルがはじけた頃、安く売りに出された。

「こんなチャンスはない」

購入に迷いはなかった。

以来、10年ほどの間、ここには、小さな小屋を建て、畑を作ったり、バーベキューを囲んだり、テントを張ったり、海に出かけたり、いわば、自然に親しむ基地として使ってきた。

殊に、娘さんは、大のお気に入りだ、仕事仲間を連れてきては、レジャーとサーフィンの拠点にしてきたという。



▲厚さ135mmのDログ。外側は丸太小屋の雰囲気だが内側はフラット。





ゲストルームとなる2階洋室。



2階から見下ろす。薪ストーブの薪は、植木屋さんからもらったそうだ。



2階バルコニー。天気の良い日は、大島と伊豆の山々が見える。



ロフトには洗面所&トイレがある。



浴室。蛇口をひねれば、伊豆高原自慢の温泉が出る。天然温泉に浸かるとぐっすり眠れるそうだ。



ベッドルーム。「釘や画鋏を思い切り打てるのがログ壁の良さです。クロス壁じゃこうはいきませんからね」

「普段贅沢しない分、パーツとやりました。来てもらうこと。先日も、生まれ故郷の千葉から親戚が十数人集まったという。バーベキューを囲み、伊豆自慢の海の幸に舌鼓を打った。」

「問い合わせをして話を聞くと、真剣にモノ作りをしていることがわかりました。ニュージーランドの紫外線に強い、いい塗料を使っているんですよ」

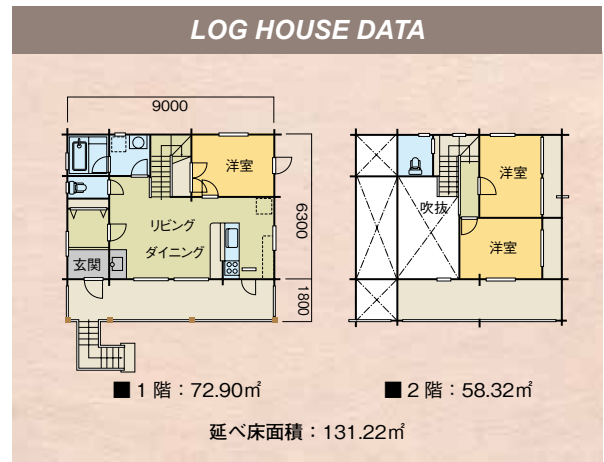
モデルハウスをベースに、自分なりにアレンジをした。基本が安かった分、ログ材にはお金をかけ、いちばん厚い135mmを選んだ。「迫力があるでしょう。『安い割に本物』。そう思っています」

ロフト部分は洗面所とした。

「2階はゲストルームにしたいので、お客さん用に水場を作りました」

こうして、アウトドアライフの拠点は、住まいへと生まれ変わった。

**人を呼び人の輪に花を咲かせる  
これからの生活と共に**



■取材協力：株式会社サエラホーム TEL.082-256-4550



廃材で手作りした門柱。

「おもてなし」の心です」

娘さんも父とログの動静からもっぱら目が離せないといった様子。

「建築中から足を向けては『色はこうした方がいい』とか『手作り家具はもっとログハウスに合うようにしなきゃ』なんて、辛口批評をします(笑)」

生まれたばかりの木の家は、人の輪に、笑顔の花を咲かせているようだ。

**オーナーさんからの“一言”**

**「大満足、夢心地です」**

吹き抜けはいいですね。天井までズバツと続いて開放感があります。天窓の明り取りもお勧め。昼間意外と明るいです。今年の夏は過ごしやすく、扇風機だけで快適に過ごせました。今は大満足、夢心地です。



マック君は、ラブラドル・レトリバー、2歳半。

「ここにログハウスを建てよう」

そう思ったのは、今から、2年ほど前のこと。64歳でリタイアし、貯えは何か有意義なことに使いたい。ふいとログハウスの展示場に立ち寄ったところ…

「米松のプンとした木の香に『ハッ！』としたんです」

調べれば、ログハウスは、調湿性が高く住むのに快適だそう。自らの手でトンカン、トンカン、柵を作ったりして遊ぶのにもいい。仕事には自信がある。自動車メーカーの開発の仕事をしてきた宮内さんは、車・バイクを自らいじるなど、ハンドメイドはお手のもの。裾野の自宅を引き払い、ここで新しい生活を始めるビジョンがはつきり見えた。

となると、メーカーはどこにしよう。「サエラホーム」というところのモデルハウスは、自分が住むのに手頃な大きさだし、間取りも気に入った。Dログは、外壁はワイルドだけど、内壁はフラット。住むのにちょうどいい。何より、値段が安いのがありがたい。

**本物の家を我が家に  
サエラホームさんとの出会い**



菜園には、イタリアントマト、小玉スイカ、胡瓜、ナス、メロンが育つ。今後は、ガーデニングや芝生もやりたい。